

児童・生徒の歯科保健行動に関する調査（概要）（案）

医療政策部医療政策課

調査目的

学齢期は、歯科保健において、生涯を通じた口腔ケアや生活習慣等を身につける大切な時期であるが、この時期の歯科保健意識や行動などの実態については、十分に把握できていない。東京都における学齢期の口腔内の状況改善に向けた支援策を検討するため、都内の学齢期児童・生徒を対象に歯科保健意識等と口腔内所見について実態調査を実施した。

調査方法

<調査時期>

令和元年5月から9月

<調査対象>

都内の国公立小学校・中学校・高等学校計191校の児童・生徒（小学5年生から高校3年生）

<調査内容>

- ① 生活習慣および歯科保健行動（睡眠時間、朝食摂取の状況、歯みがきや歯科受診の状況等）
- ② 定期健康診断（令和元年）歯・口腔の健康診断票（歯肉の状態、むし歯の状況）

<調査方法>

質問票を学校に送付、学校から児童・生徒へ配布し、児童・生徒本人または保護者が記入
→健康診断内容について、学校が健康診断結果を質問票裏面に転記→学校ごとに質問票を回収

結果①（歯科保健行動等）

<就寝時刻>

「午後10時頃まで」(26.5%)、「午後11時頃」(34.5%)、「午前0時頃」(26.9%)、「午前1時頃」(9.4%)、「午前2時すぎ」(2.2%) 学年が上がるにつれ、遅くなり、小学校では「午後10時頃まで」、中学校では「午後11時頃」、高校では「午前0時頃」が最多。

<朝食摂取頻度>

「毎日」(86.8%)、「週3～4日」(6.2%)、「週1～2日」(2.1%)、「ほとんど食べない」(4.3%) 学年が上がるにつれ、「毎日」食べる者の割合が減少、高3では8割弱。就寝時刻が遅いほど、摂取頻度が少ない。

<甘味飲料摂取頻度>

「ほぼ毎日」(24.9%)、「週3～4日」(24.3%)、「週1～2日」(28.1%)、「ほとんど飲まない」(22.2%) 部活動の頻度が高いほど、甘味飲料の摂取頻度が高い。

<就寝前の歯みがき>

「必ずみがく」(75.6%)、「たまに忘れる」(20.1%)、「みがかないことが多い」(2.4%)、「ほとんどみがかない」(1.3%) 中学校以降、「必ずみがく」が小学校に比べやや少ない。

<歯みがき時間(1回あたり)>

「3分未満」(40.7%)、「3～5分」(47.1%)、「5～10分」(10.0%)、「10分以上」(1.7%) 学年が上がるにつれ長くなり、小学校では「3分未満」、中学校以降では「3～5分」が最多。

<フッ化物配合歯磨剤の使用状況>

「使っている」(46.7%)、「フッ化物配合かわからない」(41.2%)、「フッ化物配合ではない」(5.2%)、「歯みがき剤を使っていない」(5.9%) 小学校では6割がフッ化物配合を使用。中学校以降、「フッ化物配合かわからない」が増加し、フッ化物配合使用が減少。

<歯みがき補助器具の使用状況>

「ほぼ毎日」(8.0%)、「週に3～4日」(5.4%)、「週に1～2日」(18.9%)、「使わない」(67.4%) 学年が上がるにつれ、使用割合が減少。歯みがき時間が長いほど、歯みがき補助器具の使用頻度が高い。

<かかりつけ歯科医の有無>

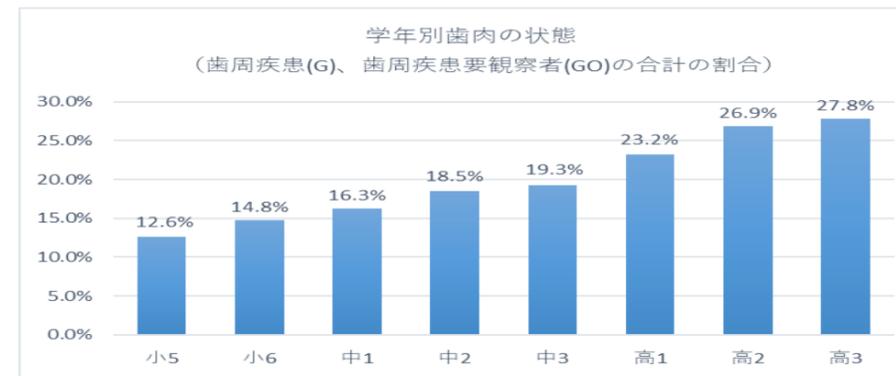
「ある」(72.2%)、「ない」(26.6%) 学年が上がるにつれ、「ない」者が増加。特に小6から中1への減少割合が大きい。

<定期的な歯科医院の通院頻度>

「3か月に1回」(23.1%)、「半年に1回」(19.2%)、「1年に1回」(10.7%)、「症状がないと通わない」(46.5%) 学年が上がるにつれ通院頻度は減少。少なくとも1年に1回以上定期的に歯科通院している者は小5で76%、高3で33%。

結果②（口腔内状況）

A 歯肉の状態

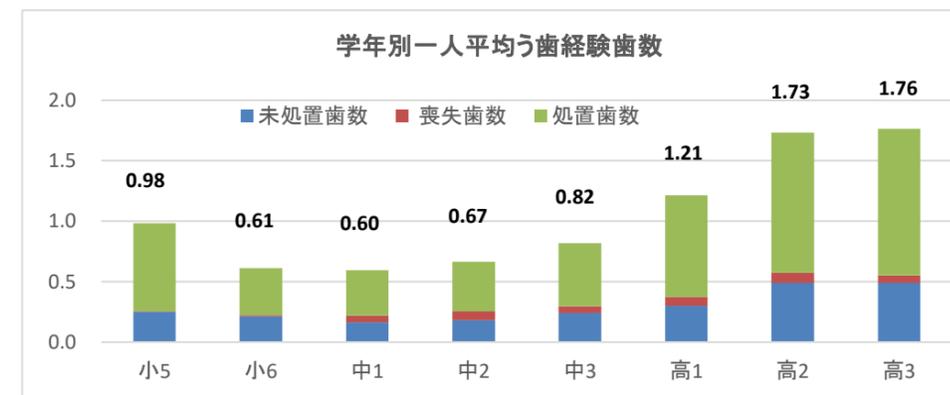


<歯肉の所見と歯科保健行動等の関連>

- ・ゲームをする頻度が高い
- ・就寝時刻が遅い
- ・睡眠時間が短い
- ・朝食の摂食頻度が低い
- ・甘味飲料の摂取頻度が多い
- ・甘味飲料の摂取量が多い
- ・歯をほとんどみがかない
- ・就寝前の歯みがきの頻度が低い
- ・歯みがき時間が短い
- ・歯みがき補助器具の使用頻度と
- ・かかりつけ歯科医がいない

歯肉に所見がある者が多い

B 歯の状態



<歯の状態と歯科保健行動等の関連>

- ・睡眠時間が短い
- ・朝食摂取頻度が低い
- ・甘味飲料の摂取頻度が多い
- ・甘味飲料の摂取量が多い
- ・就寝前歯みがき頻度が低い
- ・歯みがき剤を使用していない(高校)

むし歯(う歯)被患率

むし歯経験歯数が多い